

このコーナーでは、京都のまちづくりに取組む企業・団体をご紹介します。今回ご紹介するのは、当財団の賛助会員になっていただいている、京都中央信用金庫です。京町家等継承ネットの相談会をはじめとした相談事業の中で、京町家継承に関連した貴重なアドバイスをいただいています。同金庫地域創生部地域創生課長の重野利明さんと渡辺一義さんにお話をうかがいました。



お話をうかがった重野さんと渡辺さん（京都中央信用金庫本店にて）

京都のまちへの想い

京都中央信用金庫は京都市内に82店舗あり、京都のまちを主なフィールドとしています。京都のまちが元気であることが、我々の金融機関としての繁栄につながります。京都の市民や企業が元気になる、さらには地域が元気になるために「汗をかいて」お手伝いをしたいと思っています。

京町家の保全・継承

京町家は京都の文化そのものだと考えています。京都市内には、たくさんの京町家が残されていますが、残念ながら日々取り壊されています。京町家を残すために、金融機関としてお金の面だけではないお手伝いをしたいと考えています。例えば、企業、団体あるいは専門家などと連携したご相談対応などには、金融機関としてこれまで積み上げてきた、企業や団体とのお付き合いを活かせると思っています。京町家の保全・継承に関してお受けすることが多い「利活用」、「相続」、「改修資金の調達」の相談については、そのような連携が重要になります。

ただし、金融機関としては、あくまで「お客様本位」で考えています。京町家を残すためには、ある程度の金銭的余裕や、京町家への強い思いが必要な場合もあることを実感しますが、無理な提案はかえって所有者にとって負担となることもあり

ます。京町家を残すことだけではなく、お客様にとって何が一番大切なのかを考える必要があると感じています。

従来の金融機関の考え方では、築年数が古い京町家は、担保価値がゼロとみなされます。しかし、我々は、京町家そのものの価値を評価し、融資を検討しています。京町家で事業を行うことがアピールポイントなどになっていることを積極的に評価できると考えています。また、京町家の所有者は、新しいことを提案すると面白いと思ってくださる方も多いと感じています。

京都のまちづくりへの貢献

私たちの本店は、鉾町の中にあることから、祇園祭への協力は以前から積極的に行っています。今は時代が変わりましたが、昔は本店の総務部で厄除け粽を作っていたこともあるくらいです。

「京都」には貴重な伝統や文化が残されています。一方で、ベンチャーのまちなどとして斬新な一面も持っています。私たちは、これからも伝統を継承しながら、現代の考え方を融合させていけるようなまちづくりのお手伝いをしたいと考えています。

京都中央信用金庫ホームページ

<https://www.chushin.co.jp/>

CONTENTS

- (P1) 京都市人の京都知らず (P3) ようこそ！まちセンへず (P4-5) 京町家見学会
- (P6) 地域まちづくり・京町家の専門家紹介／「四条町大船鉾会所改修プロジェクト」文化遺産保全の国際大会で発表
- (P7) 私とまちセン／京都市人の京都知らず 編集後記
- (P8) 企業（賛助団体）紹介・京都中央信用金庫

令和元年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆さま			

公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口
上る梅湊町83番地の1（河原町五条下る東側）
ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704
E-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP: <http://kyoto-machisen.jp>



※センターへお越しの際は公共交通機関をご利用下さい。



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。



※先斗町では、地域で景観に関わる行為が計画・実施される場合、事業者と意見交換をする「地域景観づくり協議会制度」を活用しています。

開催しました！

フィールドワーク

中京区編

洛中・洛外図の下京を歩く

京都市景観・まちづくりセンターでは、安土・桃山時代に絵師・狩野永徳が京の市中(洛中)と近郊(洛外)を描いたという「国宝 上杉本 洛中洛外図屏風」の寸寸複製パネルを展示しています。

この屏風の魅力を多くの方に知っていただくため、これまでまちセンでは展示ボランティアの富名腰隆さんを講師にギャラリートークやパネルトークを数多く開催してきましたが、今年度は実際にまちへ飛び出し、洛中洛外図に描かれた場所をめぐるフィールドワークが行われました。

5月3日に開催された「洛中洛外図の上京を歩く」に続き、今回は「洛中洛外図の下京を歩く(中京区編)」と題して、富名腰さんの案内によりまちを歩きました。

※屏風が描かれた当時の京は「上京」と「下京」に分かれており、その「下京」のうち、現在の中京区の範囲のまち歩きを行いました。



あ いにくの雨模様の中、23名の参加者の皆さまにご参加いただきました。冒頭、中京区長の松田様よりご挨拶をいただきました。今年は中京区制90周年記念の年にあたり、中京区の魅力や、今後の展望などについてお話しいただきました。



三 条大橋の下で、江戸時代に造られた「寛文新堤」の遺構を眺めながら、鴨川の治水の歴史や、昔の鴨川の幅はもっと広がったことなどの解説を聞きます。フィールドワークの道中ではさまざまな場所で鴨川の河原の痕跡を確認しました。



上京と下京を分けた二条大路(現・二条通)のそばにて

二 条大路は平安京の東西の通りの中では最も幅が広く、17丈(約51メートル)もあったそうです。



二条大橋の下、洛中洛外図パネルの前にて

実 際の場所に身を置いて解説を聞くと、より一層理解が深まります。



屏 風に描かれている「弁慶石」は、今はビル街の中にあります。場所が少し移っており、同じ石かどうかは分からないそうですが、400年以上前に屏風に描かれた石を今でも見られるのは驚きです。



西洞院蛸薬師にて

西 洞院通の広い道幅は、西洞院川が流れていた名残だそうです。かつては豊富な水をいかして染屋さんが集まっていた。明治時代に川を暗渠にして、四条～塩小路間には路面電車が通されました。

他にも多くの場所を回りましたが、各チェックポイントでとても詳しい富名腰さんの解説があり、参加者の皆さまはとても熱心に聞いておられました。雨のせいもあり、予定していたコースの全てを回る前に時間切れとなりましたが、とても充実した内容のフィールドワークとなりました。洛中洛外図と現在の姿を見比べながら歩くことで、普段見慣れている風景の中に改めて京都の深い歴史を感じることができたのではないのでしょうか。

富名腰さんのコメント



5月の「洛中洛外図の上京を歩く」に続いて、「下京を歩く(中京区編)」を雨の中実施しました。昨年スライドを用いて実施した中世の京都を歩くテーマに沿って、町へ出てみようという企画です。

交通量が多く声も聞こえにくい中で、参加者の皆さんは熱心に聴いていただき、ありがとうございました。

政治の中心であった上京では、将軍御所や有力守護を中心に、応仁の乱から御土居や聚楽第の痕跡を辿りましたが、商人の町であった下京編は町衆の生活振りが中心になり、下京惣構や秀吉の都市計画の跡を辿りました。

来年度のフィールドワークは下京区編として、祇園祭から四条河原の興行や河原で暮らした人々の生活を見ていく内容を予定しています。「ひと・まち交流館京都」をゴールにして、参加者の皆さまとの意見交換もできればと考えています。



5月に実施したフィールドワーク風景



次回のギャラリートークは…

「応仁の乱後の洛中の城」をテーマに1月25日(土)午後2時より京都市景観・まちづくりセンターにて開催します。気軽にご参加ください。

ようこそ！ まちセンへ

当センター職員より、まちセンの事業や京町家の特徴などについてクイズを交えながら講義を行いました。また、まちセンに展示中の祇園祭の山鉦の模型や京町家ミニチュアハウスを熱心に見学され、翌日の京町家見学の良い事前学習になるとおっしゃっていました。その後、展示コーナー「京のまちかど」ではボランティアスタッフの中居さんから京都のまちの成り立ちや歴史などの解説をうけられました。皆さま興味津々に耳を傾けておられ、質問が絶えない様子でした。

研修員のひとりであるキャンベルさんは、建築を学ばれた経験があるため京町家については大変興味深かったそうです。「長く日本に滞在して、もっと文化財について学びたい意欲が沸いている！」と目を輝かせておられました。

※まちセン＝公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

視察でまちセン*を訪れた方をご紹介します「ようこそ！まちセンへ」。今回は、立命館大学 山崎正史名誉教授がコースリーダーを務めるJICA(独立行政法人国際協力機構)課題別研修に参加中の皆さまです。スリランカやジャマイカなどさまざまな国より来日された研修員7名が、「世界遺産の適切な管理を通じた観光振興」をテーマとしたプログラムの1つとして、9月にまちセンをご訪問くださいました。



展示コーナー「京のまちかど」にて皆さまと記念撮影

ジャマイカより参加のキャンベルさん。とても明るくお話し上手な方でした。

今回いただいたお土産はコチラ
紅茶の本場スリランカ産のフレーバー紅茶の詰合せです。





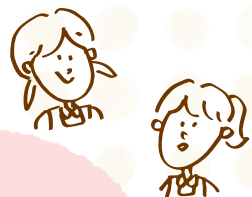
京町家保全・継承にむけた取組紹介

京町家の魅力を伝えるためにできること

まちセンでは、京町家に直接触れることができる機会をできるかぎり設けることで、さまざまな方に京町家の素晴らしさを知っていただき、保全・継承へとつなげたいと考えています。

今回は、まちセンが実施した京町家の見学会の様子をまとめてご紹介いたします。(まちセン＝公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター)

京町家 × 女子高生



京都の高校に通う学生であっても、京町家の中に入ったことのある方はごく少数です。今回まちセンでは、京都の高校ならではの視点で、住教育の一環として「京町家」を学習する機会を設けている、京都聖母学院高等学校の授業のお手伝いをさせていただきました。

今回、京都聖母学院高等学校の生徒さんが見学したのは、「龍谷大学深草町家キャンパス」です。こちらは、まちセンが京町家まちづくりファンドで改修助成をさせていただいた元呉服商の大型町家です。美しい佇まいをそのまま残す京町家を見た



生徒さんたちは、「ドラマみたい!」、「おばあちゃんのお家みたい!」、「こんなお家に住んでみたい」と口々に感想を述べていました。また、座敷から眺めるお庭の美しさ、オクドサンの上の吹き抜け空間、「ツシ」と呼ばれる天井の低い居室、厚い扉が付いた堅牢な土蔵などを見て、現代の住居との違いを肌で感じていました。

見学会は、過ごしやすい秋の日で開催されたため、建具を取り払い、大広間としてしつらえられた京町家の中を吹き抜ける、やさしい風を感じることもできました。

写真：京都聖母学院高等学校の高1、高3の授業での京町家見学の様子

京町家 × 市民の皆さま



まちセンでは、京町家に関わるさまざまなテーマを取り上げる「京町家再生セミナー」を開催しています。普段はセンターのワークショップルームにて座学形式で開催しますが、年に数回、京町家に講座と見学会を開催しています。

今回は、『京町家の座敷飾り：重陽の節句を愉しむ』と題して、京町家まちづくりファンドを活用して改修された九条町家（伊藤邸）を会場に、所有者であり居住者である大阪市立大学名誉教授 伊藤正人氏による講座を開催しました。趣向を凝らした座敷飾りやお庭のしつらえを眺めながら、日々の暮らしを通して知る京町家の魅力についてお聞きしました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、座敷から眺める雨に濡れた庭の情景は、独特の静けさと美しさを湛えていました。



九条町家での講座と見学会の様子

京町家 × 専門家



京都市よりまちセンが受託している「京町家専門相談」において、相談対応をお願いしている「京町家相談員」の皆さまを対象とした研修の一環として、京町家見学会を「上京区編」と「下京区編」の2回にわたって開催しました。

「上京区編」では、中立売通黒門の東南角に位置する大型町家を見学しました。この京町家は、改修工事の際に「京都市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例（通称：3条その他条例）」による建築基準法適用除外制度が活用されました。今後、飲食店と宿泊施設としての開業を予定しています。

見学会では、建物を所有する株式会社おおきに商店代表取締役の植松俊之氏に京町家保全への想いに関するお話をうかがい、建物をご案内いただきました。また、京都市建築指導課の3条その他条例担当者による条例の解説などもお聞きすることができました。

母屋だけでなく、庭や蔵、離れのお茶室にいたるまで丁寧に改修された京町家を見た京町家相談員の皆さまからは、それぞれの専門分野に関連する専門的な質問も出されました。



研修会（上京区編）の見学会の様子



研修会（下京区編）の見学会の様子



「下京区編」では、松原通高倉西入の「京扇子 大西常商店」を見学しました。見学会の講師として、昭和14年以来代々この地で扇子専門店を営まれている大西家の大西優子氏を迎え、京町家を引き継ぎ、改修する過程で経験されたことや、京町家や日本の伝統文化の魅力を広く知ってもらうために、この建物で開催されている文化的な催しなどについてお話いただきました。

それぞれに逸話や想い入れのある部屋をご案内いただき、老舗の商家の伝統の重みを肌で感じる事ができた見学会となりました。

「上京区編」と「下京区編」で見学した京町家は、これから新たな役割を担う京町家と、80年余り続く老舗としての京町家と、その性質は異なりますが、所有者の「保全・継承」への熱い想いには共通するものが多くみられました。

京町家の魅力を一人でも多くの方に届けるために

まちセンでは、これまでさまざまな形で京町家の見学会を開催し、多くの方に京町家に直接触れていただく機会を提供してきました。

住居や店舗・事務所として使われている京町家に大勢の見学者が訪れるのは、そこでお住まいになっている、あるいは仕

事をしていらっしゃる方にとっては少なからず負担をお掛けしますが、まちセンの取組に賛同してくださる皆さまのご協力によってこのような機会を設けることができます。これからも、さまざまな人々に京町家の魅力を伝えるお手伝いができれば、と思います。

